

平成27年度 循環型社会に貢献できる産業人材育成事業に関するアンケート結果

宮城県古川工業高等学校 建築科

■調査概要

対象：建築科3年生39名（男子21名・女子18名）

調査日：平成28年2月1日（月）質問用紙による選択および自由記述回答

■学習の理解・定着について

【数字は%】

		はい	いいえ
1	産業廃棄物の3R、発生抑制・再使用・再生利用（リデュース・リユース・リサイクル）について理解できた。	100.0	0.0
2	解体された木材（廃材）を活用して、次の木工製品を作り出す工程が理解できた。	92.3	7.6
3	建築科の学習を通し、ものづくりの楽しさを学ぶことができた。	100.0	0.0

■持続可能な循環型社会を築くため、また将来世代に豊かな環境を残していくために、あなたが実践している行動について

		はい	いいえ
4	買い物に行くときは、マイバックを持参し、不要なレジ袋をもらわないようにしている。	53.8	46.2
5	照明、テレビ、パソコンなどの使用していない機器の電源をこまめに切るようにしている。	66.7	33.3
6	冷暖房を控え、衣服で調節し、冷暖房器具の使用時間を短くしている。 （冷房の設定温度は28℃、暖房の設定温度は20℃）	46.2	53.8
7	水道やシャワーの蛇口をこまめに止め、節水している。	82.1	17.9
8	電気製品や家具は、壊れても修理して使えないかをまず考えて、安易に買い替えをしない。	76.9	23.1
9	ゴミは種類ごとにきちんと分別し、市町村のリサイクルに協力している。	76.9	23.1
10	家族や友人と、学校や地域でできる環境保全の実践活動について、考えている。	43.6	56.4

■本事業における感想（自由記述）

- ・廃材の再利用などを通し、普段は廃棄してしまうものも、まだまだ使えるということを学ぶことができた。（女子）
- ・建築は、すごく幅広い分野で、私たちの生活に密接に関係している事が多いと感じた。（女子）
- ・インターンシップや課題研究を通し、実際に見学したり体験することができ多くの知識を得ることができた。（女子）
- ・ものづくりを通して、3R活動や循環型社会を築くための取り組み方について更に深く学ぶことができた。（男子）
- ・ものづくりの楽しさ、計画することの大切さを学び大きく成長することができた。とても良い経験になった。（男子）
- ・あまり知らなかった3Rのことが理解できたので、これからの生活の中で実践していこうと思った。（男子）
- ・建築科ならではの資源再利用の学習ができ、これからの生活に役立つ知識を得ることができた。（女子）
- ・建築が周囲に与える影響を学ぶことができた。（男子）
- ・廃材を利用して、新しいものづくりをする楽しさを学べた。（女子）
- ・新しいものを作り出すだけではなく、古くなった使えなくなったものを活用し、別な物を作り出すことを学んだ。（男子）
- ・ものづくりは、一人でつくるのではなく、周囲の人たちと協力して完成させることの大切さを学んだ。（男子）
- ・中学の時に苦手だった木工などが上手くなり楽しいと感じるようになった。周りの仲間と協力して作品を作れて良かった。今後の生活に活かしたい。（女子）
- ・資源を再利用することで、今まで廃棄していたものを、新しい物に生まれ変わらせることができ、3Rについて学ぶことができて良かった。（女子）
- ・最初は興味があって勉強していたが、深く学ぶことで関心が変わった。より多くの技術を身に付けることができた。（女子）
- ・様々な実習を通して、考えて動くことの大切さを知った。（女子）
- ・建築には、様々な分野があることがわかり、建築のおもしろさを発見することができた。これから更に活かしたい。（男子）
- ・建築という分野が、社会において幅広く存在していることを学び、どんな所でも学習したことが活用できると知った。（女子）
- ・沢山の校外研修を通して、実際に習った事を見て聞いて学ぶことができた。建築科に入学してとても良かった。（女子）
- ・ものづくりとは、とても大変なものであり、楽しくそしてやり甲斐を感じるものだということがわかりました。（女子）
- ・課題研究を通して再利用について深く考えるようになった。（女子）